

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ベネッセ雪が谷大塚保育園

大田区南雪谷 3-11-20

(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動テーマ

表現：色 対象児：3・4・5歳児クラス

<テーマの設定理由>

・「色」と素材の両方に着目し、探求心を広げる活動を展開します。クレヨン・絵具・色鉛筆・折り紙など、様々な素材を使うことで、同じ色でも質感や表現方法が異なることを体験できます。例えばクレヨンの塗り重ねで生まれる深み、絵具を混ぜた時の新しい色、折り紙の透け感など、素材の違いが子ども達の好奇心を刺激します。活動を通じて、子ども達は『どうして同じ色でもクレヨンと絵具で見え方が違うのか』『色を混ぜるとどんな新しい色が生まれるのか』といった問いを自ら立て、主体的に探求を進めます。また、友だちと素材を交換しながら共同制作を行うことで、協働性や多様性を認め合う姿勢も育まれます。様々な活動を通して子ども達が色と素材の世界にわくわくしながら学びを広げ、創造力・協働性・探求心を育むことを目指します。

・日常の保育の中で、「好きな色」「きれいな色」などの会話や活動の中で色を話題にする姿がみられ、色を使った活動に集中して取り組む姿がみられたので「色」への興味関心が高いと判断しテーマに選びました。また、陶芸家の先生に定期的に指導にお越しいただいていることも、園の強みであると判断しました。

2. 活動スケジュール

- ①『お弁当箱』とテーマに絵画活動（クレヨンと絵具を使って）
- ②色紙と糊を使って『花火作り』
- ③ボディーパーペイティング
- ④『自画像を描いてみよう』（光を当てて輪郭を描いてから、思い思いに表現）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

画用紙・絵具・ビニールシート・クレヨン・糊
折り紙・ライト・乾燥棚

4. 探求活動の実践

<活動の内容>

- ①絵画の先生をお招きして『夢のお弁当箱を作ろう』をテーマに絵画指導を行う。クレヨンでお弁当箱を描いてから中に食べたい食べ物を描き始める。子ども達の様子をみながら友だちの絵の鑑賞や絵具を使うことを勧めてみるにより、更なるイメージの広がりがみられた。
- ②紙と糊を使って花火づくり。折り紙を指で千切り、糊付けした黒い画用紙に貼り付けていく。「ここは虹みたいに並べてみたよ」「きれいな花火みたいになってきたね」等、工夫して楽しむ姿が見られた。
- ③ボディーパーペイティング。最初は指で模造紙に描いたが、しばらくすると手の平を使ってのびのびと描き始めた。
次第に腕にも顔にも絵の具を塗るなど、大胆に遊べるようになっていった。

④影を使った絵画。子ども達の後ろから光を当て、影を使って輪郭の下書きをし、下書きをよく見ながらクレパスでなぞっていく。輪郭がかけた後は自分の顔を描いていく。慣れてくると「私は髪の毛はピンクにしようかな!」「僕は金色!」等、想像を膨らませて表現できるようになっていった。

<活動の様子がわかる写真、2枚以上>



5. 振り返り

- ・子どもたちは、ボディーペインティング・夢のお弁当箱の絵画・花火作り・そして光を使った自画像の活動等を通して、さまざまな素材や方法で表現する楽しさを味わっていました。
- ・ボディーペインティングでは絵の具の感触や色の変化を楽しみ、全身を使って大胆に表現する姿が見られました。夢のお弁当箱では、自分の好きな食べ物を思い浮かべながら色や形を工夫し、想像したものを描く喜びが広がっていました。
- ・花火作りでは、色紙をちぎったり貼ったりしながら、夜空に広がる花火を思い思いに表現し、構成する力が育っていることが感じられました。
- ・自画像では、光を当ててできた影をなぞりながら輪郭を捉える方法で取り組み、「顔ってこんな形なんだ」と新たな発見をする姿がありました。観察する力が深まり、一人ひとりの個性が表れた作品となりました。
- ・様々な活動を通して、子どもたちは感触・想像・観察・構成といった多様な表現に触れ、友だちと見せ合いながら表現の幅を広げていきました。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

ベネッセ雪が谷大塚保育園

大田区南雪谷 3-11-20

(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動テーマ：音 対象児：全園児

<テーマの設定理由>

・音は乳幼児にとって最も分かりやすい探求対象であり、感覚的な楽しさから始まり、言葉や身体表現へと広がりやすい特徴があります。拍手や足踏み、楽器や環境音などを通じて子どもは違いに気づき、表現し、友だちと共有することで協働的な活動へと発展します。

音は家庭や地域とも繋がりやすいテーマです。家庭では「音探し」や「音日記」を通じて保護者と一緒に楽しむことが出来ます。さらに廃材や自然素材を使った楽器作りは環境意識を育み、持続可能な学びにも繋がります。これらの理由から、音をテーマにすることで、子どもの主体的な探求心を育み、感覚・言葉・表現・協働・環境意識といった多面的な成長を支えることができると考えています。

・日頃より幼児ユニット『ポルケ』との交流を行っていたので、子ども達に音への興味・関心があると考えました。また、近隣に区立小学校及び私立小中学校があり、吹奏楽などの音楽が聴こえてくることも多く音楽が身近にある環境にあることから音をテーマとしました。

2. 活動スケジュール

- ①身近な遊具を使って音楽会
- ②大きな音や楽器に触れる（ポルケさんの演奏から）
- ③『お楽しみ会』（保護者をお招きして楽器や歌などの表現活動）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・マルチパーツ・積み木（円柱型）
- ・ペットボトル容器・どんぐり
- ・ピアノカ

4. 探求活動の実践

<活動の内容>

- ①身近な遊具を舞台やマイクに見立てて音楽会を楽しむ

⇒円柱積み木を掴んで歌を歌ったり、マルチパーツの上に乗ってみるなど個々の活動を真似て楽しむ姿から、保育者の働きかけによって『みんなで遊ぶと楽しい』『一緒に』など友だちとイメージを共有して遊ぶことの楽しさに気づくことが出来た。

- ②幼児音楽ユニット『ポルケ』による楽器演奏会開催

⇒『ポルケ』の演奏を聴き、本物に触れることで、より音への興味関心の高まりが感じられた。様々な楽器や歌声を思い出しながら遊具を楽器に見立てて演奏してみたり、歌ってみるなどの姿が見られた。その後、ペットボトル容器などの廃材や自然物を使った楽器作りへと発展していった。

- ③幼児クラスは演奏会后、お楽しみ会に向けてピアノカなどの楽器の演奏を楽しんだり、友だちと合わせて歌を歌うなど、活動の幅を広げていった。

<活動の様子がわかる写真、2枚以上>



5. 振り返り

・「音」をテーマに身近な音探しから廃材を使った楽器づくり、『幼児ユニットでの演奏』へと活動を広げた。子どもたちは園内や散歩先で聞こえる音に耳を傾け、違いに気づいたり言葉で表現したりしながら、音への興味を深めていった。廃材楽器づくりでは、自然物やペットボトルなどの素材を組み合わせ、どんな音が出るか試しながら工夫する姿が見られた。自分でつくった楽器への愛着も強く、完成するとすぐに音を鳴らして確かめる姿が印象的だった。幼児クラスの楽器演奏では、友だちの音を聴き合いながらタイミングや強弱を調整し、一緒に音をつくる楽しさを味わっていた。相談しながら表現をつくる中で、協力する姿や主体的に取り組む姿が育っていった。音を通して、聴く力・協働性・創造性が自然に育まれ、子どもたち一人ひとりの個性が響き合う豊かな活動となった。